

Francesco Algarotti and Anglomania

-An Evangelist of Enlightened Pleasures-

Noriko Kotani

フランチェスコ・アルガロッチェはイギリス気触れ

ーヴェネツィア人によるイギリス啓蒙思想の伝道ー

小 谷 訓 子

誇り高きヴェネツィア人であるアルガロッチェは、アルプスの北側におけるヴェネツィア芸術の地位を高めることに貢献した。彼はヴェロネーゼなどヴェネツィア人画家の作品を数多く購入したり、ジャンパティスタ・ティエポロに作品制作を依頼したりと、パトロン又はアート・ディーラーとして数多くの業績を残している。しかしながら、アルガロッチェはカンパニスモや利益主義だけにとらわれた単なる芸術愛好家ではない。彼の芸術に対するアプローチは学術的な体質を持ち、その見解は哲学的である。これは、アルガロッチェが長期にわたる外国滞在を通してヴォルテールやアレキサンダー・ポープといった啓蒙主義の思想家たちと親交を結んでいたことに起因する。また、彼はアイザック・ニュートンの光学理論の翻訳を手掛け、その他にも数多くの著作を残していることから、彼の批評家或いは思想家としての顔も徹底した検証に値するものである。本稿は、18世紀ヴェネツィア芸術のパトロンの中で一際目立った存在であるフランチェスコ・アルガロッチェの学術的な側面を問題の対象として取り上げ、彼の思考とイギリス啓蒙思想の理論との関連を

詳細にわたって解明することを目的とする。

つまり、アルガロッチェは、ロック哲学、イギリス経験主義そしてイギリス美学にその思想の根幹を持ち、世界をアングロ化した眼差しで捉えているという点を、彼の交友関係と1743年のドレスデン王宮ギャラリーのプロジェクトの分析を通して考察する。

残念なことに、現在に至るまでのアルガロッチェ研究は、彼を芸術のパトロンとして位置付けていることで、比較的狭義な理解に留まっているのが実情である。大抵の場合、アルガロッチェは「ヴェネツィア芸術の宣伝者」として描写されるか、或いは、ティエポロに付随した形で語られている。それに加えて、アルガロッチェとイギリスとの関連については未だ多くの問題が放置されたままである。これまでは、1930年代にハンス・ポッセ、そして1990年代に高梨光正が、アルガロッチェとジョン・ロックの思想の関係性について議論しているのみである。従って拙論においては、アルガロッチェの1730年代のフランスとイギリスでの軌跡を辿りながら、彼が学び得たイギリス哲学と美学理論の教養を検証する。